

ぴあサポ通信

R7.8.15

第41号

あすなろ相談支援事業所 三田市三輪1丁目8番11号 ☎ 079-556-5075 npo.asunaro@honey.ocn.ne.jp <http://npo-asunaro.org/>

神戸医療福祉専門学校『チーム医療論』

6月19日、1年生の授業。【リカバリー】についての講義→ピアサポーター3名の体験談。

【リカバリー】…精神科領域における「リカバリー」とは、精神疾患を持つ人が、症状の改善や回復をめざすだけでなく、自分らしく生きること、社会の中で役割を担うことを目指す過程を指す。人生を重ねてきて、リカバリーとは、なお「生きる道」そのものだなあ、と思うことが大きくなってきている。

休憩後のグループワークでは3グループに分かれ、ピアサポーターがそれぞれ入った。将来、資格を取得し、作業療法士となってゆく学生さん。まだ働いてみたいと思われる職場のイメージは湧いていないようではあったが、話をしていると、学生さんそれぞれのやさしさが出ていて、とても心地よい時間を過ごさせてもらう。

私自身も入院中にOTの時間に作業療法士さんにお世話になった思い出を持つ。作業療法士は、身体や精神に障害を持つ人のサポートをする

専門家。精神面のサポートを実際感じたことが、私にはある。しんどい時期にしてくれた事が心に残っている。4年間の学生生活の間に、実習を体験し、精神面も成長する学生さんを応援します。(N)



あすなろ相談支援事業所での実習を通して (大阪人間科学大学精神保健福祉士実習生)

特に印象的だったことは、2つあります。1つは、自分の中にあった障がいに対する捉え方・フィルターに気づけたことです。実習前は「障がいがある＝できないことが多い」という偏ったイメージを持っていましたが、実際に当事者の方と関わる中で、その人らしく地域で生活されている姿を見て、価値観が大きく変わりました。2つめは、ピアサポーターの存在の必要性についてです。病院での地域生活報告会や面談への同行を通して、時にピアサポーターが自身のリカバリーストーリーや心境を共有しながら関わる様子を見て、ピアだからこそ寄り添える関わりや言葉が、患者様にとって大きな希望になっていると感じました。

最後に、1人でも多くの入院中の患者様、地域で生活されている障がい特性を抱える方々が、「自分らしく」生活できるよう、この学びを今後の実践に活かしていきたいと考えています。(岸本)

6月13日 関西万博に行って来ました

世界各国のパビリオンが集う会場『大阪関西万博』に行きました。当日は最初大雨の予想でしたが五月晴れで快晴で大変のどかな日和。沢山人混みが長蛇の列以上の混雑でした予想を上回る勢いでした。



大屋根リングの下で国ごとのパレードもあつたりして最初障害者で優先順位で受付可能な方法を途中から知って急ぎ足で見学会場へ向かい並んで参加してまた急ぎ足でバタバタして途中休憩を挟んで沢山の会場に足を運んで時間を持て余す暇もなく慌ただしい日でした(;'▽')。夜にドローンのイベントがあると聞いて急ぎ足で移動。夜8時ごろ大屋根リングに上がって丁度座った時、ドローンショーが始まり、周りが静かになりました。約9分間の天体ショーで“命”のテーマに沿ったイベントでした。(A)

のんびりぶらり途中下車の旅

7月14日に意思決定支援ガイドライン地域移行等の意見確認研修に東京から吉野智さんが講師で来てくださいました。

そのあと、三田の蕎麦いちでの懇親会がありました。吉野さんを囲んでおいしいお食事をいただきました。



お蕎麦はもちろん美味しかったのですが、さつまいもの天ぷらが私的にはとてもおいしかったです。また三田でお気に入りのお店が増えました。吉野さんありがとうございました。(S)

雲外蒼天(うんがいそうてん)

8月15日・16日デカンショ祭りでした。丹波篠山の真夏を彩る盆踊りや盛大な花火、色々な出店で食べたフランクフルトやかき氷を忘れられない。楽しい思い出 今回来れなかった方は是非来年来てね。皆様の今年の夏休みは」どうでしたか？皆様の夏の思い出を聞かせて下さい。(K)